

平成26年10月28日(火)
第12回「選択する未来」委員会 参考資料1より抜粋

全国の市区町村の人口・経済指標の動向について

平成26年10月28日
内閣府

人口指標と経済指標の高い地域(2010年時点)

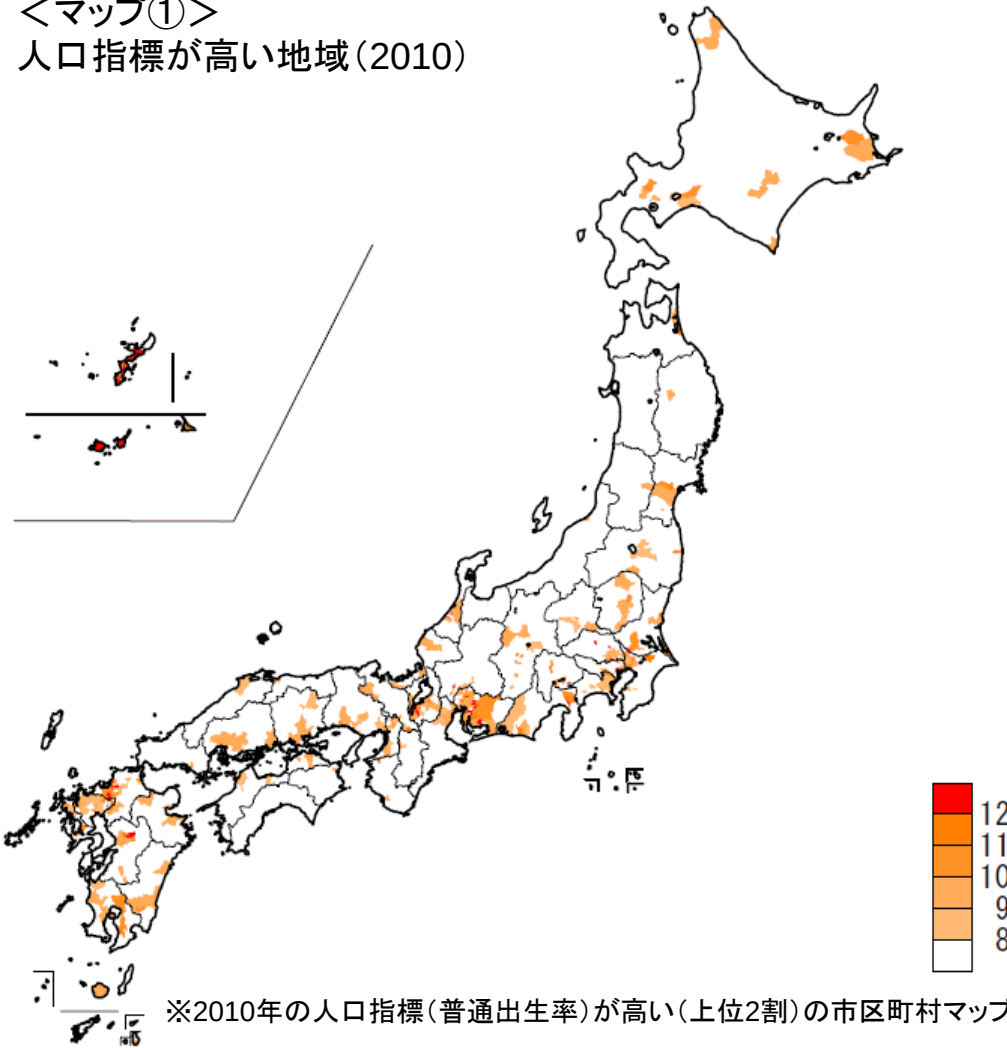
人口指標が高い、かつ、経済指標が過去ないし全国平均より上向
いている地域（マップ①・マップ②ともに暖色の地域） [226] = 64.6%

人口指標が高い地域（マップ①の暖色の地域） [350]

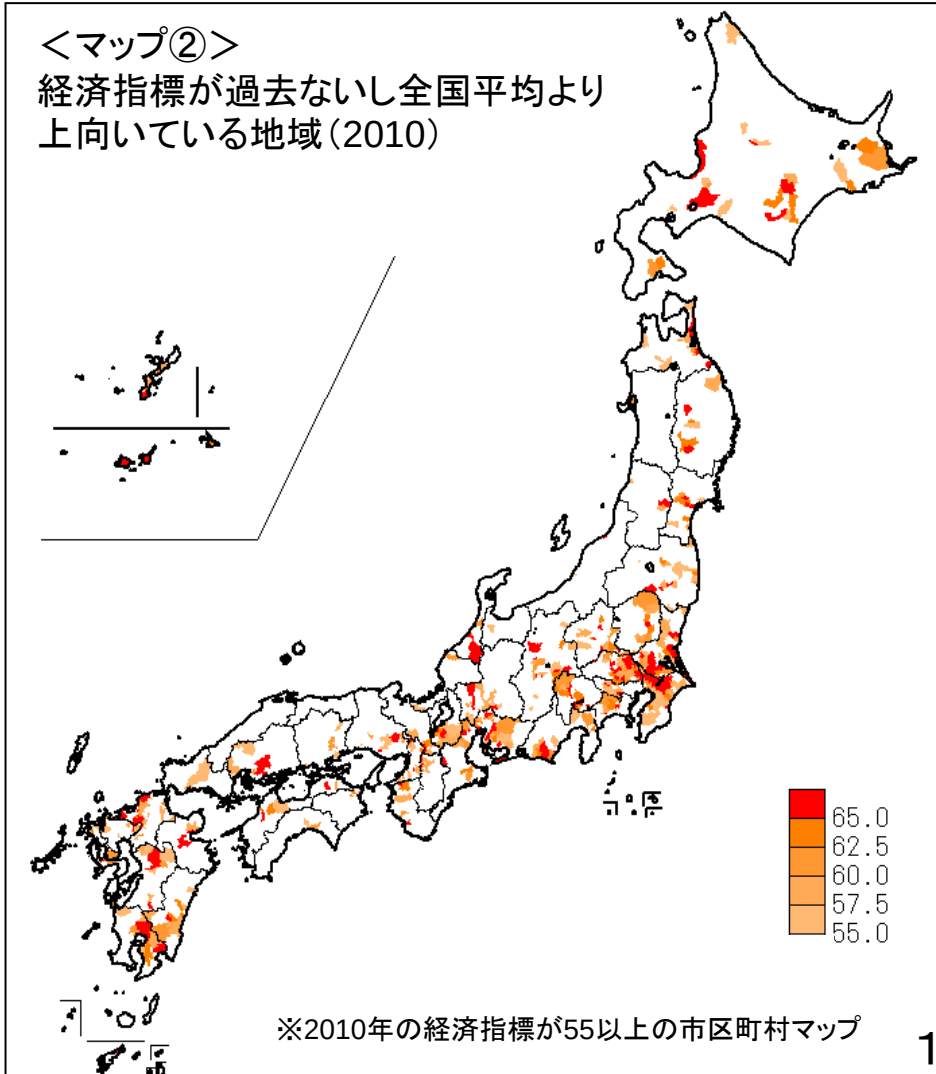
人口指標が高い、かつ、経済指標が過去ないし全国平均より上向
いている地域（マップ①・マップ②ともに暖色の地域） [226] = 40.7%

経済指標が過去ないし全国平均より上向いている地域
（マップ②の暖色の地域） [555]

<マップ①>
人口指標が高い地域(2010)

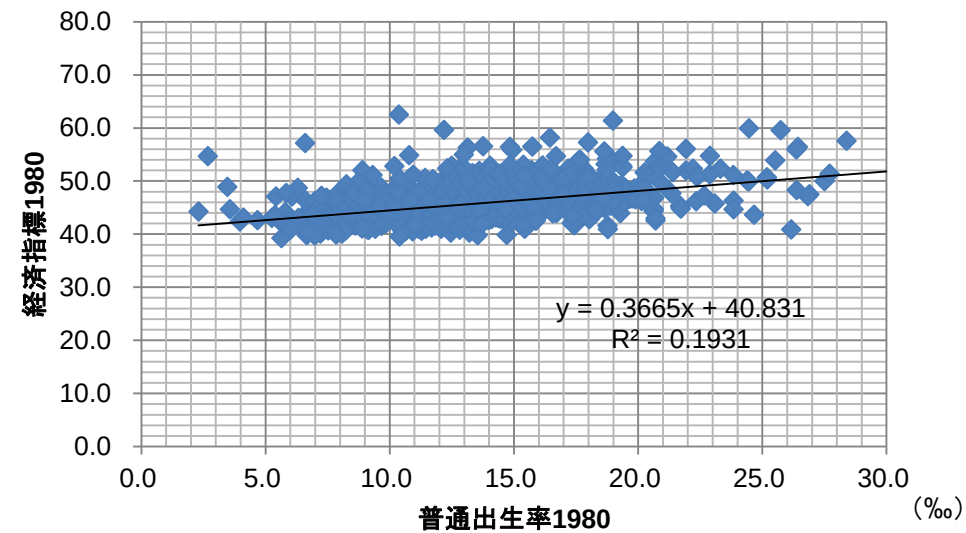
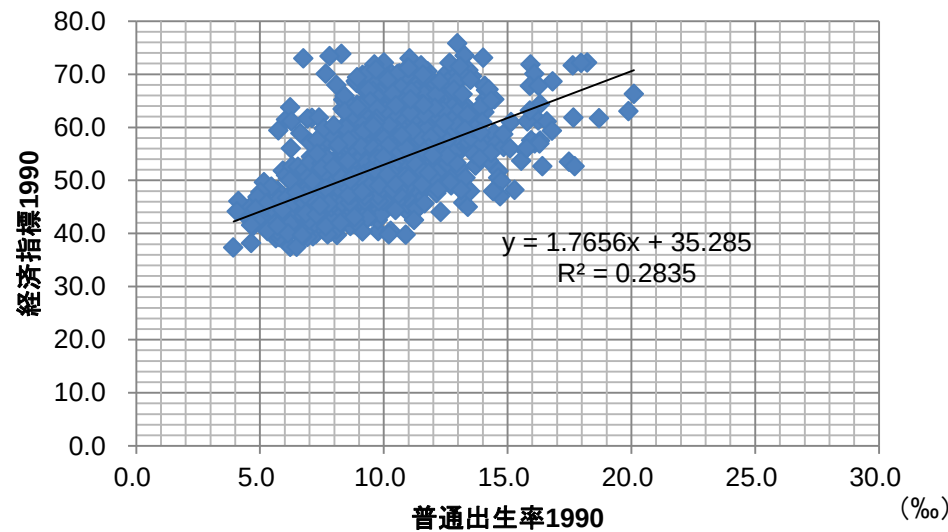
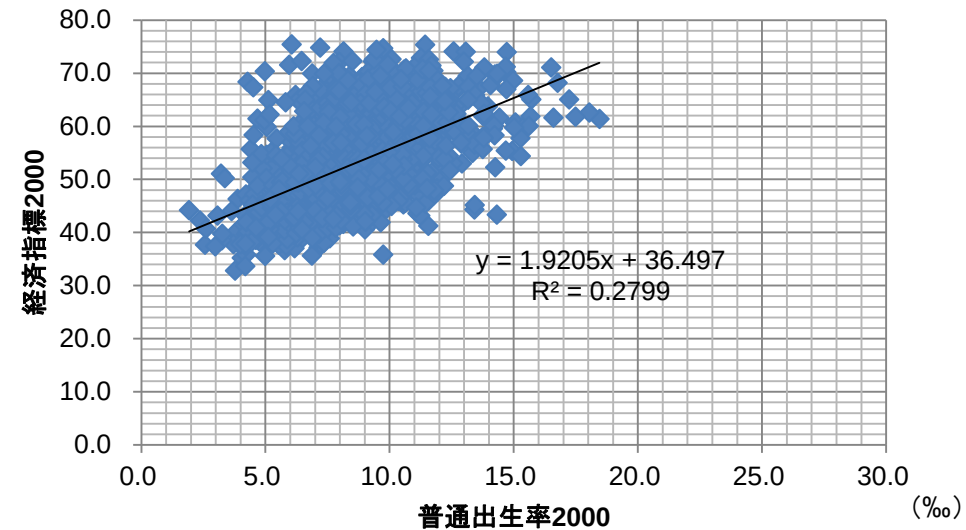
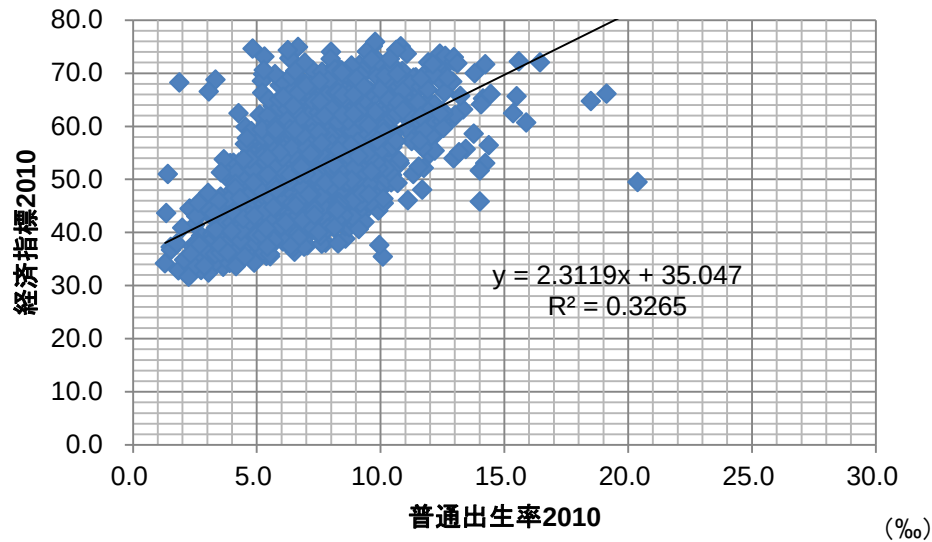


<マップ②>
経済指標が過去ないし全国平均より
上向いている地域(2010)



人口指標(普通出生率)と経済指標の関係

	2010	2000	1990	1980
相関係数	0.573	0.529	0.532	0.439



人口・経済・地域社会の関係

子どもの数が増える地域社会

<要因>

若者が多い

- ・他地域へ転出しない
- ・転出しても戻ってくる（Uターン）
- ・転入が多い（Iターン）



家庭当たり子ども数が多い

- ・仕事があり将来不安が少ない
- ・子育てしやすい（仕事との両立、支えがある）

未婚、晩婚が少ない

- ・出会いの機会がある（いろいろなつながりや絆）
- ・時間的、精神的なゆとり

内発的で持続的な地域経済

<指標>

生産

- ・1、2、3次いずれかの産業活動が活発
- ・いずれかの産業活動が大きく落ち込んでいない

支出

- ・小売・卸売販売が伸びている
- ・事業所数が増えている・減っていない



所得

- ・失業率が高くない・就業者数が減っていない
- ・住民一人当たり所得が増えている
- ・自治体の財政状況が健全

<望まれる地域社会像>

- 街の魅力
- 暮らしやすさ
- 働く場所があり所得を得られる
- 良好なコミュニティ
- 女性や若者が活躍しやすい環境
- 会社や周囲の理解
- 安定した自治体による行き届いた福祉や教育

◎ 両者の地域像は重なる部分が多い

◎ 全国的に人口が減少し出生率が低下していく中、

- 地域の魅力や暮らしやすさが選好され、人が集まり地域経済が活発化している可能性
- 地域経済が持続している地域に若者が集まり、出生率が維持されている可能性

<望まれる地域経済像>

- ビジネスが継続する、新しいビジネスが起こる
- 雇用・所得が安定し、地域にお金が回る
- 適度な人口の規模がある
- 安定した質の高い行政サービス

人口の過度の集中や過疎化を回避

地域の人口と経済を一体的に捉えた取組

全国の市区町村の人口・経済指標の動向について

◎ 指標の算出・分析方法

国勢調査、工業統計、商業統計等から得られる1980年、1990年、2000年、2010年時点の各市区町村のデータについて、以下の算出方法によって指標化した上で、時系列の変化、相関性等を分析

人口指標

<普通出生率>

市区町村毎の年間出生数を、総人口で除して算出。人口1000人当たり出生数

※出生数は、1980年、1990年、2000年、2010年の前後5年間の平均出生数として計算

※2014年4月時点の市区町村単位に集計して計算

(参考)合計特殊出生率

合計特殊出生率は、15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの。一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当

経済指標

<構成要素>

(活動主体)

・事業所数、従業者数

(所得)

・財政力指数、課税対象所得

(生産・支出)

・第1次産業:農業生産額、卸売販売額

・第2次産業:工業出荷額、卸売販売額

・第3次産業:小売販売額

<合成方法>

各構成要素について、1975年を基準(=100)として、1980・1990・2000・2010年の4時点を指数化し、各指数の偏差値を求めた上で、その算術平均を算出

※偏差値=(指数-平均値)/標準偏差×10+50

※2014年4月時点の市区町村単位に集計して計算

※偏差値を算出する際、上位下位5%は平均値及び標準偏差の計算から除外

※特定項目の影響が大きくなりすぎないように、偏差値80以上は全て80と置換え、

20以下は全て20と置換え

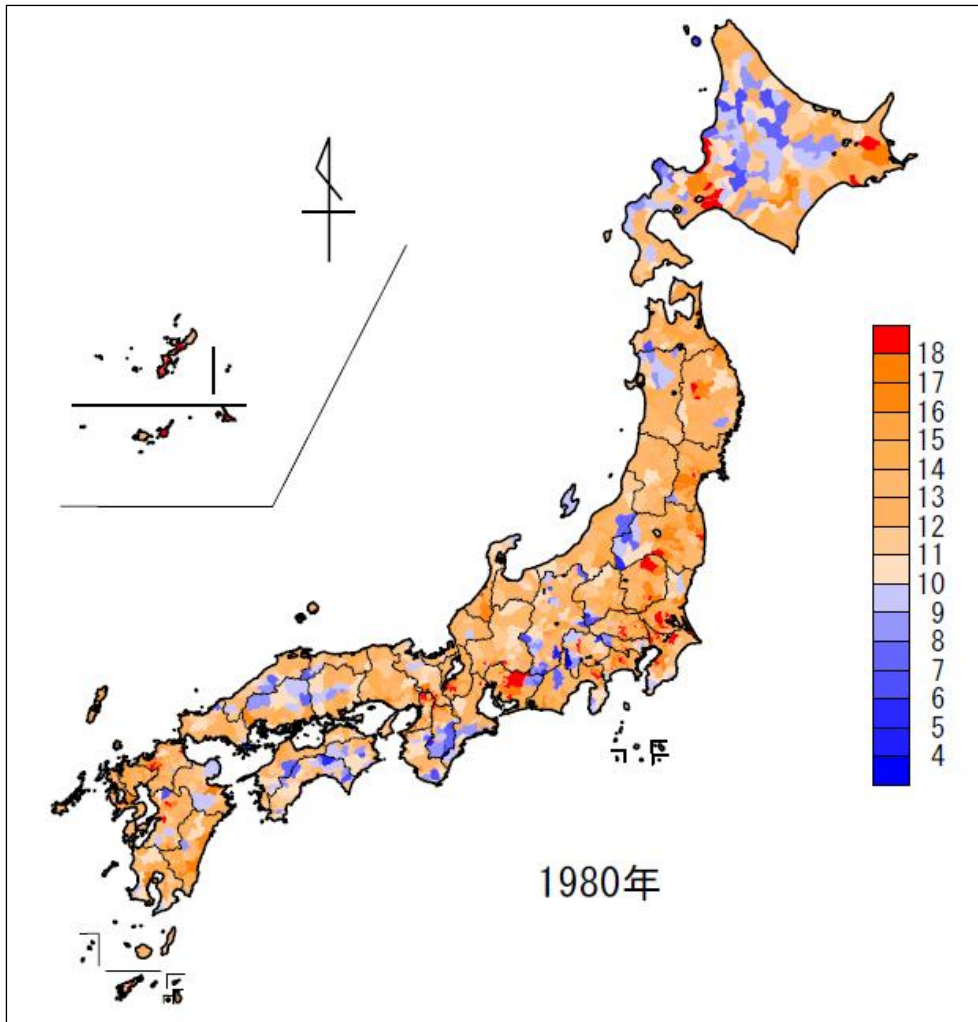
※各項目のデータに欠損がある場合、近傍地点のデータと同値と見做し、指数化

※1975年及び各時点のデータが不明の場合、指数を100とする

人口指標

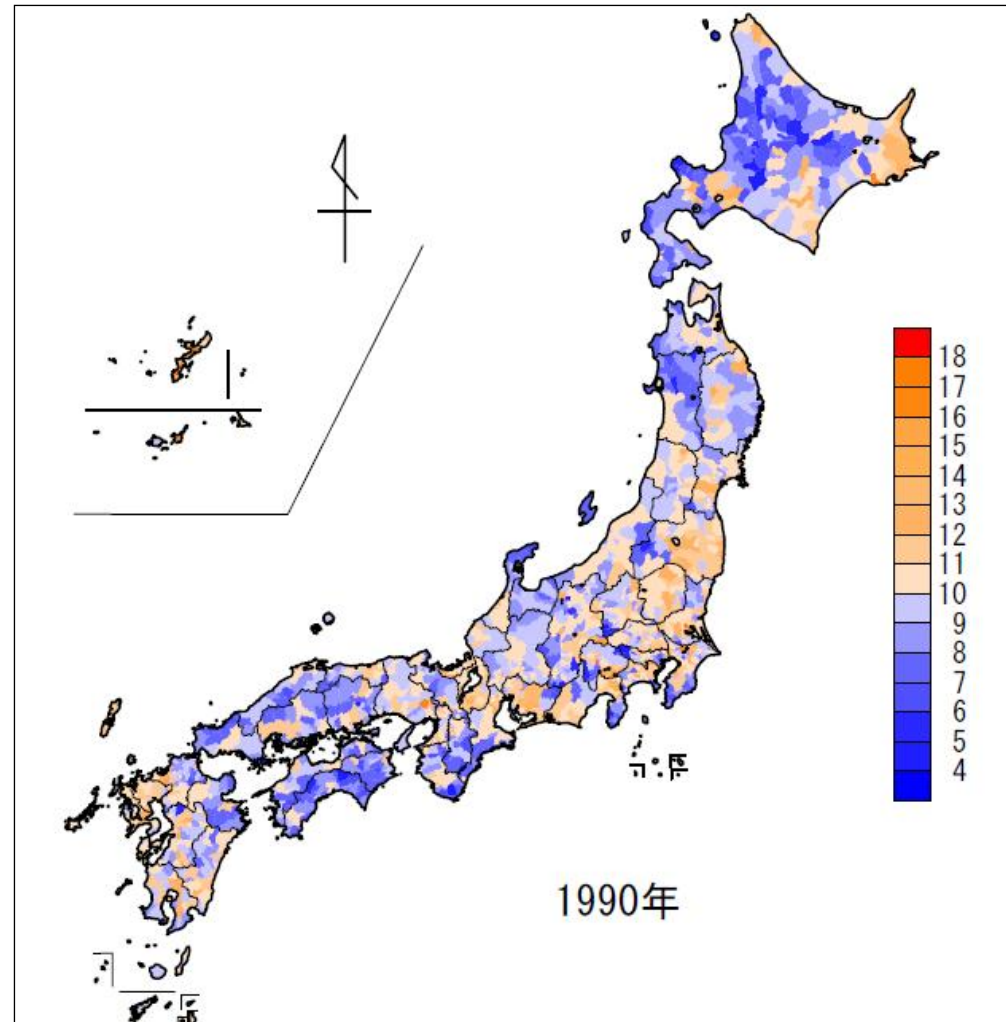
○人口指標【1980年】

暖色(人口1,000人当たりの出生数10人以上)の地域の割合:61.9%



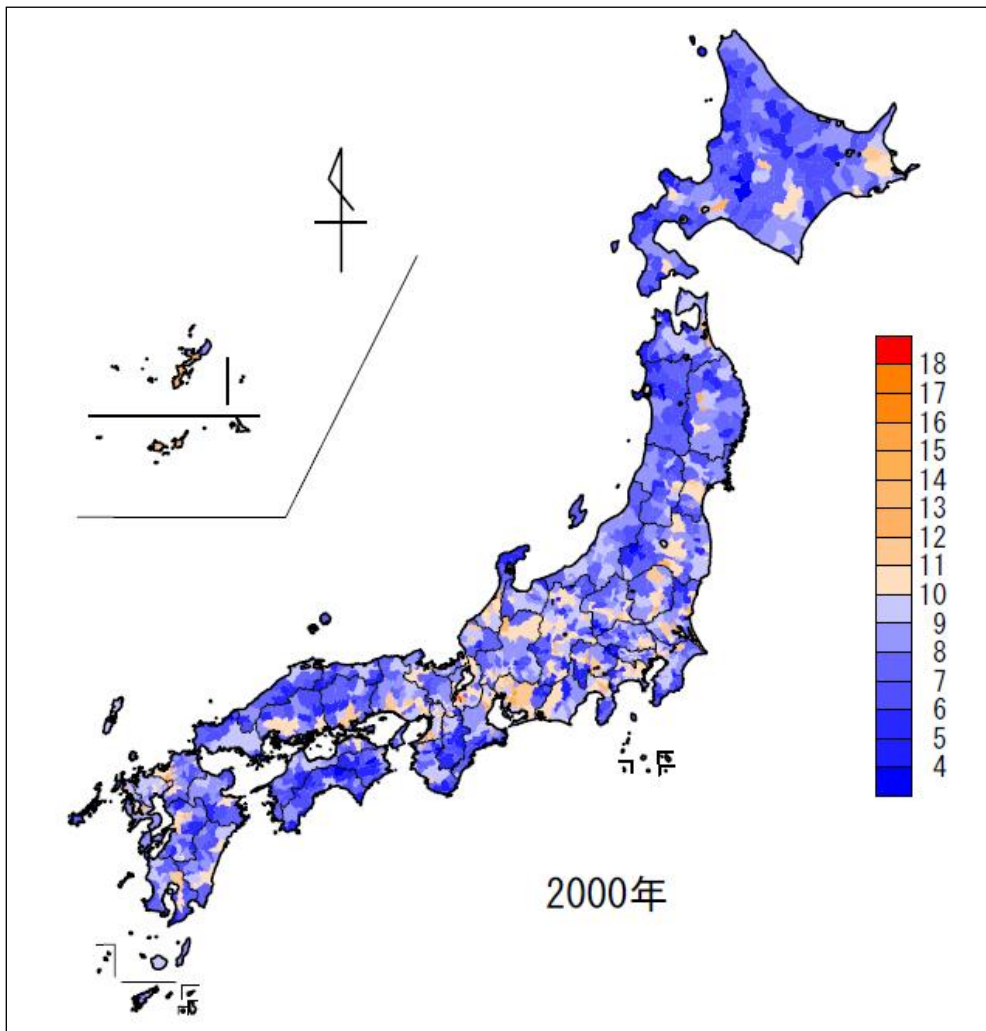
○人口指標【1990年】

暖色(人口1,000人当たりの出生数10人以上)の地域の割合:45.6%



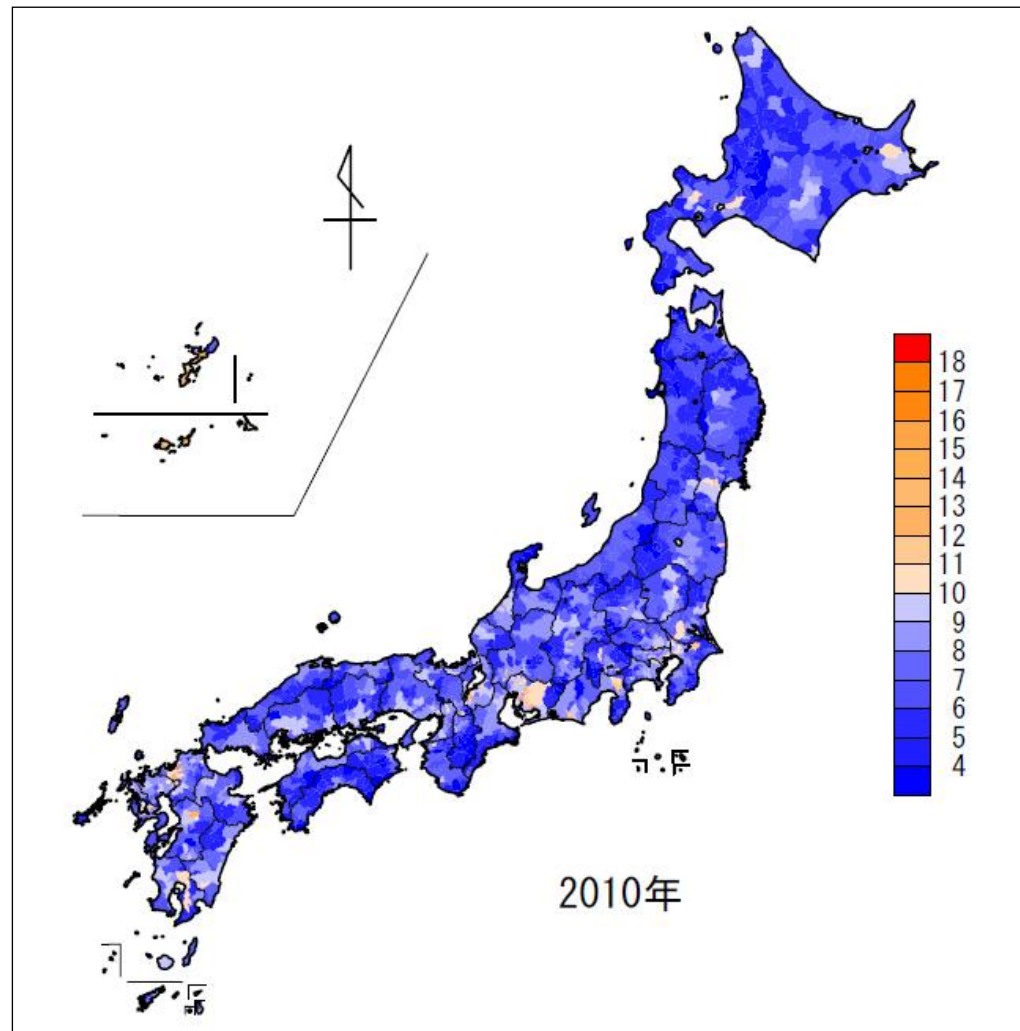
○人口指標【2000年】

暖色(人口1,000人当たりの出生数10人以上)の地域の割合:20.6%



○人口指標【2010年】

暖色(人口1,000人当たりの出生数10人以上)の地域の割合:8.6%

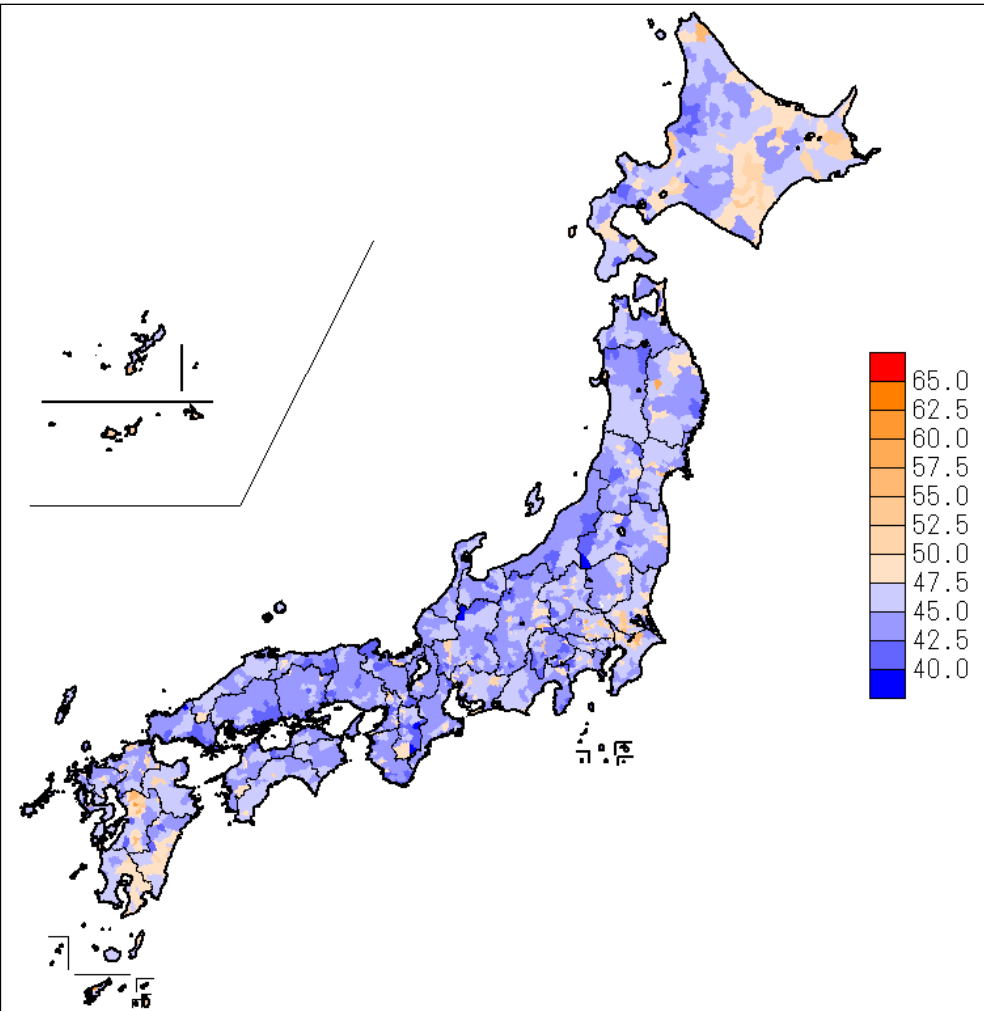


経済指標

○経済指標【1980年】

経済指標47.5未満、青色の地域の割合:81.0%

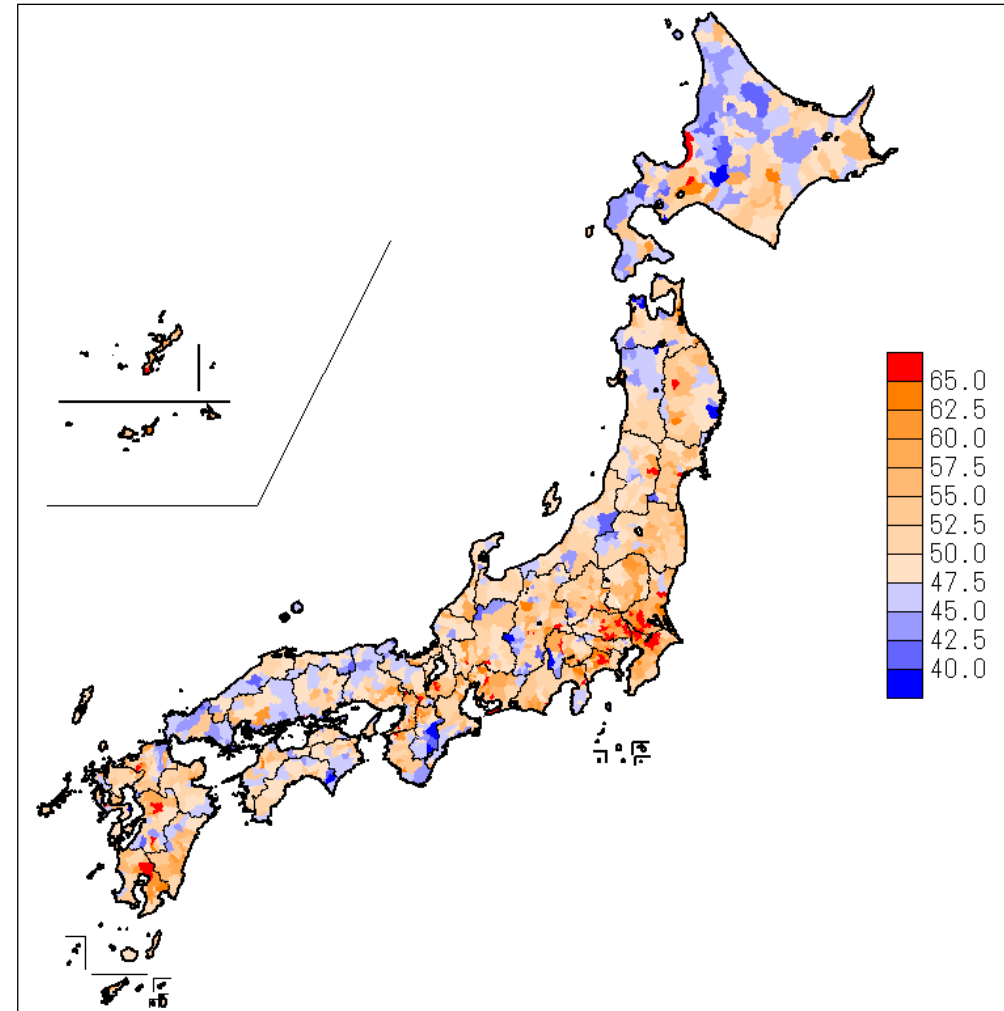
経済指標60以上、赤橙色の地域の割合:0.1%



○経済指標【1990年】

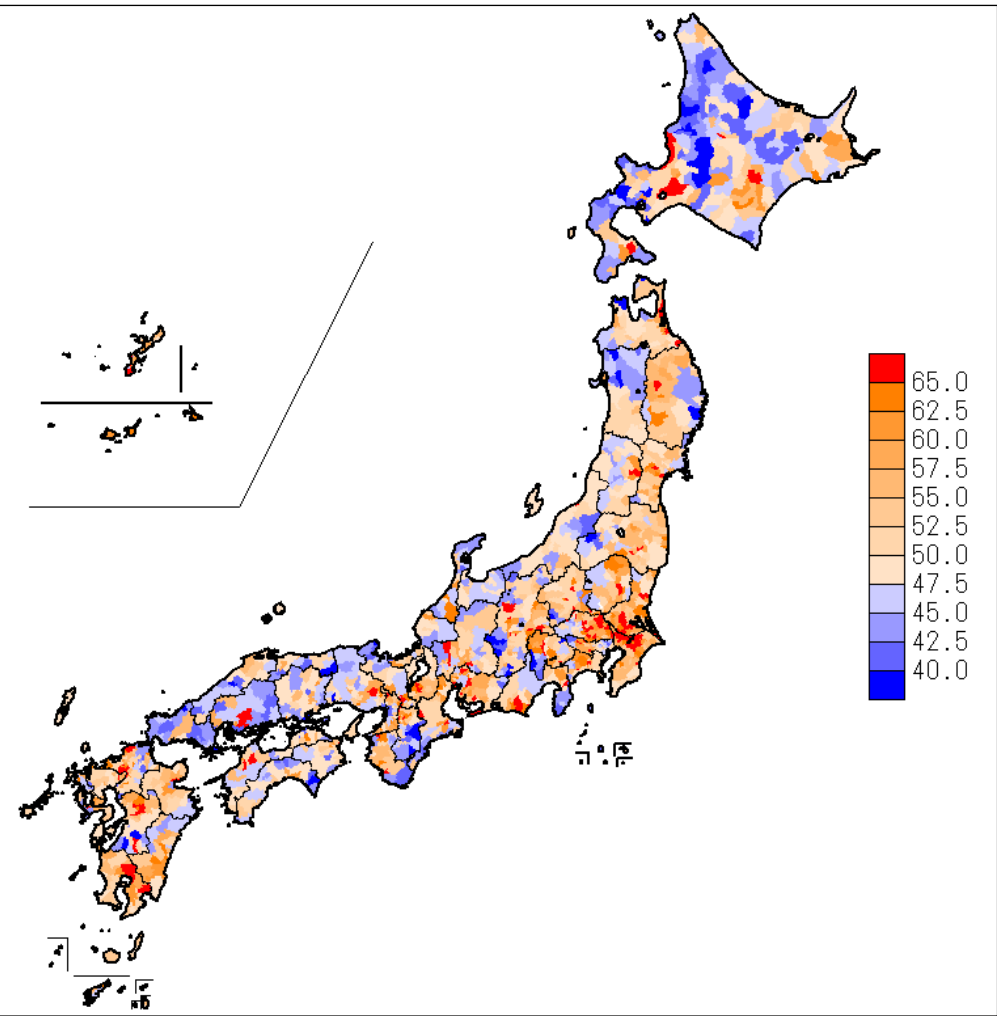
経済指標47.5未満、青色の地域の割合:22.5%

経済指標60以上、赤橙色の地域の割合:14.8%



○経済指標【2000年】

経済指標47.5未満、青色の地域の割合:28.8%
経済指標60以上、赤橙色の地域の割合:20.0%



○経済指標【2010年】

経済指標47.5未満、青色の地域の割合:38.2%
経済指標60以上、赤橙色の地域の割合:19.5%

